

“I Have a Dream”で「読む」力をつける

梶田留美

(東京都江戸川区立小岩第四中学校)

1. 『Roots』との出会い

小学生のときに、『Roots』というテレビ番組を観て、強烈な衝撃を受けたのを覚えている。1977年にアメリカで放映され、視聴率は50%を超えたという。同年10月に日本ではじめてテレビ朝日系列の局で放映された。40歳代の先生方の中には、私と同様に強い衝撃を受け、感動された方が少なくないと思う。

原作はピューリッツァー賞を受賞したアレックス・ヘイリーによるノンフィクションである。18世紀半ば、西アフリカのガンビアから奴隷商人によってアメリカへ連れて来られ、奴隷となっていく主人公クンタ・キンテとその子孫の数奇な運命が物語の軸となっている。

私の脳裏に焼きついて離れないのは、家族と平和に暮らしていた主人公クンタ・キンテが、まるで獣が捕らえられるかのように奴隷商人に捕まえられ、手足を鎖につながれて泣き叫ぶシーンだ。劣悪を極める奴隷船の中では多くの者が死んでいく。生き残った者だけが奴隷としての価値があるというのだ。残酷だと思った。アメリカ到着後、手足を縛られ、吊るされて競売にかけられるシーンにも涙がこぼれた。

2. Pre-Reading

キング牧師の授業を展開するとき、上記のことに触れずにはいられない。奴隷制度は約150年前に廃止されたものの、人種差別は続いたこと、キング牧師の演説はわずか40数年前、終戦から13年経って行われたのだということも押さえてから授業に入っている。

＜オーラルイントロダクションの例＞

As you know, there are people from many different places in America. Some came from Europe, some from Asia, some from Africa. Most people from Europe are white, while people from Africa are black. From the 17th century to the 18th century, many African people were brought to America as slaves. Why? People in America needed slaves for their farms. Black people were used by white people. In the 19th century, black people were freed. But even after that, they could not live like white people. They were discriminated against in their daily lives. Martin Luther King Jr. worked for the rights of African American.

3. While Reading

中学校入学当初は、「聞く」→「話す」→「読む」→「書く」の順序で指導を進めるのが常套手段だろう。教科書本文を導入する際は次の手順で行っている。「本文に書いてある要素を事前の活動の中に盛り込み、ピクチャーカードを見せながら英語を聞かせ、内容を把握させる」→「理解できた英語を教師のあとに続いて言わせる」→「聞いて言えるようになった英語を文字と一致させながら読ませる」→「読めるようになった英語を文字を見ながら書かせる」といった具合だ。

もちろん、この手順ですべてのレッスンを展開するわけではない。特に「理解の能力」を高める際、「聞くこと」の活動一辺倒ではよくない。「読むこと」の活動に重点を置いた授業を展開することも必要だ。新学習指導要領の外国語の目標にも「読むこと」「書くこと」という言葉が加えられた。「聞くこと」に重点を置くか、「読むこと」に重点を置くかは、発達段階や題材内容によって、3年間を見通して計画を立てなければならない。

さて、「読むこと」の活動に重点を置く場合、私が

大切にしていることは、「生徒一人ひとりに、はじめて見るまとまった文章を自分自身の力で読む体験をさせること」である。そのために、題材内容理解に入る前に、新出文型・文法・単語は指導してしまう。それらは、生徒がはじめて見るまとまった文章を読むための tools (手段) だと考えるからだ。

私は発達段階や題材内容によっては、レッスンをセクションごとに区切らずに、一気に読ませてしまう。「まとまった文章」を読ませるためだ。また、ピクチャーカードを用いてのオーラルイントロダクションは最小限に留め、生徒たちに「読む理由」を与えるようにしている。さらに、生徒に読ませる際に、最初からリーディングポイントを与えないようにしている。一定の時間(1ページ1分程度)を与え、まずは自力で黙読させ、次にワークシートでリーディングポイントを与えて、再度黙読させている。初めからリーディングポイントを与えてしまうと、ヒントを与えずぎてしまうと考えからである。

Lesson6 “I Have a Dream” を読ませるにあたっては、前述した Pre-reading のオーラルイントロダクションの最後に教科書 p.52 のキング牧師の写真の提示し、What did he do for the rights of African Americans? (キング牧師はどんなことをした人だろうか) と投げかけ、次に p.53 の当時のトイレ表示と当時の水飲み場の写真を提示し、What do these signs mean? (これらの表示が意味することは何だろうか) と投げかけ、さらにローザ・パークスさんの事件についての教科書準拠のピクチャーカードを順に並べ、What happened? (何が起こったのだろうか) と投げかけてから、Let's read about them. / Let's find out the answers of the questions. (では、それらについて読んでみよう) と促す。生徒たちに「読む理由」を与えるのだ。そして、Section 1～4 を一気に読ませることにしている。

<ワークシートの設問の例>

Section 1

1. I have a dream のスピーチはいつ誰が行ったのですか。
2. その人の夢はどのようなものでしたか。

Section 2

1. 当時、黒人が使えないものには、どのようなものがありましたか。

2. 社会の不平等に対して戦っていた女性の一人は誰ですか。

Section 3

1. ローザ・パークスさんが逮捕された経緯を述べましょう。
 - ① ある日、ローザ・パークスさんは、バスの中の()に座った。
 - ② 間もなく、()。
 - ③ 運転手は「()」と言った。
 - ④ ローザ・パークスさんは、()。
 - ⑤ 警官が来てローザ・パークスさんを逮捕した。
2. キング牧師と彼を支持する人たちは、どのような行動をとりましたか。
3. その結果、黒人たちはどのような権利を勝ち取りましたか。

Section 4

1. 1964年、キング牧師が受賞した賞は何ですか。
2. それから4年後キング牧師はどうなりましたか。
3. 最後に筆者(健)はキング牧師の夢についてどのように述べていますか。

4. Post-Reading

冒頭で『Roots』について紹介したが、教科書本文を読み終えたあとで、あるテレビ番組を録画したものの一部を見せている。2002年2月に日本テレビで放映された『知ってるつもり?! 非暴力・非服従ガンジー&キング牧師』の中のキング牧師についての約10分間の映像である。ローザ・パークスさん逮捕後、バスボイコットが行われるまでの経緯、ボイコット当日、乗客がいまま街を走るバス、KKK(黒人を迫害した秘密結社)による暴力、デモ中の黒人にかみつく警察犬や黒人を吹き飛ばす放水、キング牧師のスピーチ…。それらの映像を、とても興味深そうに生徒たちは観ている。

本文を読み終え、さらにビデオを観たあとで、感想や意見を書かせるというやり方もあるだろう。しかし、アメリカにおける人種差別の歴史や現実を知らない我々が書くと、極めて表面的なことになってしまうのではないかと懸念する。それらのことに、生徒たちが興味を持ち、さらに理解を深めようという意欲を持たせられたら、すなわち本課の学習がそのきっかけになればいいと考える。

そして「今でも生き続けている、私たちすべてにとって重要な意味を持つ彼の夢とはどのようなものだろうか。そのために私たちにできること、私たちがしていくべきことは何だろうか」と問いかけ、これらを生きていく生徒たちに考えさせている。